

まずは、このような機会をいただいた日本ヘルニア学会理事長の蜂須賀先生、国際委員長  
の三澤先生に感謝を申し上げます。現地でも大変お世話になり、ありがとうございました。

マレーシア、ペナン島での APHS 参加は、私自身は前回 5 年前のドバイの APHS に参加  
して以来です。今回の APHS では、今村先生が学会のファカルティとして大活躍でした。  
APHS における日本人のプレゼンスが非常に高まったと感じました。今村先生お疲れ様で  
した、そしてありがとうございました。

多くの先生とコミュニケーションがたくさん取れたことは、Covid19 時代のオンライン  
の学会では得られないことでした。特に今回はレンタカーを借りたことが大正解でした。ネ  
ット上の情報では、ペナンは電車がなく、移動がバスかタクシーがメインでレンタカーがお  
すすめと書いてあったので、日本で事前に国際免許証を手に入れておきました（免許センター  
や、警察署で簡単に発行されます）。書ききれないほどの多くの先生と交流を深められまし  
たが、特にレンタカーで一緒に多くの時間過ごした大谷先生、谷岡先生、黒川先生、小林先  
生、谷田先生にこの場を借りて感謝を申し上げます。車の移動は、学生時代の部活の遠征の  
ようで楽しく、皆ほとんど初対面でしたがすごく仲良くなれました。特に大谷先生には毎回  
助手席でカーナビをしてもらい、さらにまた私の我儘に付き合ってください、一緒に海で泳  
ぎ、マラッカ海峡を感じる事ができ、良い buddy となれました。

さて本題の学会のほうですが、今村先生主催の APHS 認定の suture seminar に講師とし  
て参加させていただき、貴重な経験をしました。また最終日には、口演で 8 分の英語のプレ  
ゼンテーションを行う機会を得ました。海外学会はこれまでポスターばかりでしたので、英  
語での発表は多少緊張しました。発表する時間、場所が突然変更になったり、動画がうまく  
再生されないといったトラブルもあり焦りましたが、腹壁ヘルニアに対する手術難易度  
（eTEP+TAR 主体）から EHS 分類をさらに細分類する試みの発表を無事に行うことがで  
きました。今度論文文化したいと思います。中国、台湾の先生からも興味を示していただき、  
交流ができました。

APHS に限らず、国際学会に参加することで現在の日本、自分の立ち位置がわかります。  
来年の APHS はシンガポールで、2026 年は大阪です。ヘルニア診療に興味をお持ちの若い  
先生も忙しい診療の合間に準備をして、ぜひ英語の発表にチャレンジをしてみてください。

